

ひろしまし やすだ やそきち
広島市 保田八十吉文書 仮目録

広島県立文書館

平成25年(2013)8月

凡 例

1 本目録には、広島市 保田八十吉文書を掲載した。

2 目録の各項目は以下のとおり。

請求番号 本文書群の群番号(199504)と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1/1 199504 / 1 / 1

表 題 資料に原表題のあるものはそのまま採り、ないものは適宜付与し〔 〕書きで表記した。内容等で補記すべきものがあれば()で補った。集合形態をした資料の内訳を示す場合には、頭に“○”を付けた。

年 代 資料に記された作成年月日を探り、推測した場合は()書きで表記した。

作 成 資料に授受関係のあるものは で結んで表記した。多人数にわたるものは、適宜「他 名」と略記した。

形 態 資料の形態を記した。

数 量 資料の点数を記した。

3 文書の排列は請求記号順とした。

4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に付した。

【文書群概要】

ひろしまし やすだ やそきち
広島市 保田八十吉文書 (請求記号 199504)

広島市京橋町の豪商，保田八十吉が受け取った書画・書翰など。

出 所 保田八十吉

出所地名 広島城下新町組京橋町 / 広島区京橋町 / 広島市京橋町 / 広島市南区京橋町 [現在]

役職等 第百四十六国立銀行頭取，広島棧橋会社取締役，広島市会議員（第1期），広島貯蓄銀行副頭取，広島県農工銀行取締役，広島銀行頭取など。

分量 5点（2箱，2冊，1巻） / データ件数 8件

収蔵までの経緯 平成7年(1995)6月27日，原蔵者より寄贈。

年代 明治～大正

歴史(履歴等) 保田八十吉(1843～1919)は，広島城下京橋町の商家縄屋(保田家)の分家(新宅)の3代目として生まれ，城下町の豪商が明治維新とともに没落する中で広島を代表する豪商となった。自身の利益にとらわれず，宇品築港事業では築港費用募集の先頭に立って資金集めに奔走し，生活困窮者の救済にも奔走するなど，篤志家であった。明治19年(1886)に請われて第百四十六国立銀行取締役に就任し，明治30年(1897)に同行が普通銀行の広島銀行に転換した後も，亡くなるまで頭取の地位にあったほか，多くの公職を務めた。画家や書家などとも交際，援助し，日清戦争時には明治天皇に所有の書画を献上している。広島政財界の精神的支柱であり，死後に鶴羽根神社境内に顕彰碑が建てられた。

内 容 大正元年(1912)に保田八十吉が古稀を迎えるに当たり贈られた書画をまとめた折本，画家など著名人からの書翰をまとめた卷子など。

関連資料 広島市・保田家文書(199603)，安芸国広島城下京橋町・保田(義郎)家文書(199808)，広島市・木村恒氏旧蔵文書(200602)

参考文献 広島県立文書館平成17年度収蔵文書展『京橋町・保田家文書展 広島城下商家の活動と文化』，広島銀行『創業百年史』(1979)

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

(2012.9.26 記述 / 西村 晃)

番号	表 題	年 代	作 成	形態	数量
1	大正紀元壬子桂月題二橋保田翁古稀駕帖	大正元.		折本	1冊
2	筆華墨情帖	昭和5.		折本	1冊
3	諸先生書翰集 吉嗣拜山, 山田養吉, 小鷹狩元啓, 熊谷直彦, 横山大観, 望月玉溪, 藤山鶴城, 岡倉覚三, 望月玉泉, 西幸吉, 六角紫水等			卷子	1卷 (43通)
4	万里雲山詩帖 箱入			折本	1冊
5	左 男山春暎・中 南極寿星・右 稻荷秋色之図 三幅対 67.5×21×9.5cm, 二重箱, 内側箱蓋内側に箱書「明治四十五年壬子春月 為祝保田二橋翁古稀寿 平安望月玉溪写」	明治45.春	平安望月玉溪写	木箱	1箱 (3卷)
5/1	○左 稻荷山 42×125cm		玉溪画	卷子	(1卷)
5/2	○仲 寿老 42×125cm		望 玉溪	卷子	(1卷)
5/3	○右 岩清水八幡 42×125cm	壬子.春	玉溪写	卷子	(1卷)